

議 事 要 旨

会 議 名	第 31 回 町田市子ども読書活動推進計画推進会議		
日 時	2026 年 7 月 14 日（火） 14：00～16：00	場 所	中央図書館 ホール
出 席 者	吉成委員 大石委員 輪田委員 三浦委員 中川委員 武藤委員 長尾委員 福田（比）委員 福田（有）委員 島崎児童青少年課長 田中子育て推進課長 伊藤教育総務課長 小松指導主事（指導課長代理） 本郷図書館長 【事務局】 宮坂企画・地域支援係長 野口サービス係担当係長 小林主事 菱谷さるびあ担当係長 吉田主任 野木主任 佐藤	欠 席 者	
項 目	議 事 内 容		
◎開会	・ 出欠確認 ・ 資料確認 ・ 本郷図書館長挨拶 ・ 新委員自己紹介		
◎議題 1	・ 本会議は、「第五次町田市子ども読書活動推進計画 2025 年度取組結果及び 2026 年度取組予定について」の報告及び情報交換を趣旨とする。 【第五次町田市子ども読書活動推進計画 2025 年度取組状況及び 2026 年度取組予定について】 ・ 第五次町田市子ども読書活動推進計画の概要を説明 ・ 資料 2 を用いて、各取組担当課から、第五次町田市子ども読書活動推進計画 2025 年度取組結果及び 2026 年度取組予定についての報告を行った。 （事務局） 各取組の自己評価の基準は、『A：予定以上に取り組めた、B：予定通りに取り組めた、C：予定よりも取り組めなかった』となっている。 ○「基本目標Ⅰ」についての報告 （児童青少年課）		

●1-3 学童保育クラブのおはなし会

・2025 年度取組結果

29 のクラブで、地域ボランティアや職員によって、おはなし会が実施されており、そのうち半数以上のクラブでは週に 1 回以上の頻度で開催された。

また、図書館との共催イベントを行うクラブもあり、子どもたちが本に親しむ機会を積極的に設けていた。

・2026 年度予定

おはなし会を学童保育クラブ支援員、およびボランティア団体等と連携しながら実施する。

(子育て推進課)

●1-5 「子育てひろば」のおはなし会

・2025 年度取組結果

子育てひろばの中で、年齢や季節に合わせた絵本の紹介や読み聞かせを 5 地域で計 178 回実施した。堺地域では、おはなし会を主とした会を 4 回開催し、町田地域では、館内の利用者向けに不定期で実施している「スポットタイム」にて、読み聞かせを 19 回開催した。忠生地域では忠生図書館職員と連携し、子育てひろばの中で図書館の紹介や読み聞かせを 5 回実施した。

地域のボランティアに絵本の読み聞かせを行ってもらう機会を設け、5 地域で計 16 回実施した。

・2026 年度予定

引き続き、あそびの会での読み聞かせや、室内開放等でのスポットタイム（不定期のお話会）、図書館との連携事業の実施を行う。

季節の絵本の紹介や読み聞かせを行う。

ボランティアによる読み聞かせの機会を作る。

(図書館)

●1-10 若者の参画イベント

・2025 年度取組結果

2025 年度は、図書館プランナーが企画したイベントを 8 件実施した。

6 月に推しの漫画を語り合うイベント、7 月に TRPG というゲームの初心者講座を行った。12 月 13 日にビブリオバトル、21 日にオリジナルノート作り、2 月 22 日に推しの漫画を語り合うイベント、3 月 7 日に TRPG イベント、3 月 22 日にエコたわし作りのイベントを実施した。12 月のビブリオバトルイベントでは、企画したプランナーが手書きの宣伝 POP を作って、各学校に宣伝協力を依頼するなど、新しい広報に挑戦した。

このほか、児童青少年課主催の若者イベント「まちだ若者大大大作戦

	～WAKU WAKU～」に出店するなど、プランナーが主催するイベントを開催するだけでなく他のイベントにも参加して、図書館をアピールすることができた。 ・2026 年度予定 子ども・若者が参画できるような取組を検討・推進できるよう、図書館プランナーミーティングで企画したイベントを実施する。 (事務局) 「基本目標 I」の主な取り組みは、子ども向けおはなし会の実施や、子どもへの読書活動普及など。 各取り組み項目の自己評価としては、16 項目中 A 評価が 3 つ、B 評価が 13 個だった。 2025 年度の取組状況としては、2024 年度と同水準でおはなし会や講座などのイベントを実施することができた。 A 評価の取組、1-9：図書館のイベント・講座や 1-10：若者の参画イベントは、多くのイベントが開催できて、好評だったため A 評価としている。1-12：移動図書館の出張運行については、当初予定した出張運行先に、1 つ運行先を加えることができたため A 評価とした。 質疑応答 (三浦委員) ●1-4 子どもセンターのおはなし会 いくつかの子どもセンターの取組が報告されているが、これ以外の子どもセンターでも同様の取組がされているという理解でいいか。 あるいは各年度でピックアップされた子どもセンターで取組が予定されているのか。私は、南町田なので、例えば南町田のつみきでは、どうだったのかが、ちょっと気になった。 (児童青少年課) 子どもセンターは現在ご報告している 5 館(+分館 1 館)で全てとなる。子どもセンター(市直営)のほか、市内には類似施設として、子どもクラブ(指定管理等で運営)が 8 館あり、南町田に所在する施設は子どもクラブに該当する。 子どもクラブにおいても、地域のボランティアの方々によるおはなし会を実施しており、参考までに、南町田子どもクラブつみきでは、毎月 1 回、乳幼児向けに地域のボランティアの方々による絵本読み聞かせを取り入れたプログラムを行っている。 ●1-15 マイ保育園登録時の絵本配布
--	---

	(武藤委員) 2025 年度は 1,130 冊の絵本を 0 歳のマイ保育園新規登録者に配布した、とのことだが、2024 年度は何冊だったのか。配布冊数が増加したのか減少したのか知りたい。 (子育て推進課) 手元にデータがないため数字は不明だが、大きく変わってはいない印象だ。ただ、子どもの数は年々減少しているので、右肩上がりとはなりにくい。 ⇒(確認後) 2024 年度は 978 冊だった。 ●1-16 各校特色のある読書活動 (福田(有)委員) 不登校支援を行っている中で、子どもに本を読むきっかけを与えたい。教育センター(けやき教室・くすのき教室など)に本はあるのか。 (指導課) 確認して後日お示しする。 ⇒(確認後) 若干の本が置いてある。 ○「基本目標Ⅱ」についての報告 (図書館) ●2-3 図書館 ・2025 年度取組結果 2024 年度の小学校教科書改訂にともなって問い合わせの多かった資料の充実を図った。また、カウンターでの要望・質問を受け、子ども向け麻雀の入門書、クマと人の関わりの本、外国にルーツを持つ子どもたちが学校生活に馴染めるよう、両国の文化を知るきっかけになる本などを購入した。 図書館見学に訪れた児童に今流行りの人気児童書のヒアリングを実施したところ、多くの要望が寄せられた。これを受けて、子どもが図書館に来館したときにいつでも読みたい本が読めるように館内閲覧専用の「ここで読もう人気の本コーナー(通称:ここよも)」を設置することを決め、そのための人気シリーズ本を複数冊購入した。 さらに、おはなし会等で利用頻度が増えた紙芝居や乳幼児向けの大型絵本を購入した。 ・2026 年度予定 図書館において、児童・生徒の興味関心や調べ学習に対応できる蔵書構成、資料の充実に努めるとともに、引き続き幅広いニーズに迅速に応
--	--

	えられるよう、情報収集に努める。 ●2-12 「みんなが読める本」の周知活動 ・2025 年度取組結果 さまざまな読書方法や障がい者向けサービスを PR するため、展示やイベントなどの広報活動を計 7 件実施した。 上半期には、夏休み期間に「マルチメディアデイジー（絵本）上映会」、「点字でなまえをうってみよう！」を行った。また、リーディングトラッカーを中央図書館の貸出・閲覧席に常時設置し、毎月内容を変えながら中央図書館の点字絵本の特集コーナーを設置するなど、必要な人が本をすぐに読める環境を整えた。また、1 月には若手教員育成研修で、マルチメディアデイジーの紹介を行った。 ・2026 年度予定 さまざまな読書方法について、イベントや展示により広報予定である。 （教育総務課） ●2-7 学校図書館の蔵書整備 ・2025 年度取組結果 学校図書館図書標準全校達成。 学校図書更新比率全国平均以上の達成校 39 校。 ・2026 年度予定 学校図書館図書標準全校達成。 学校図書更新比率全国平均以上の達成校 45 校。 各学校図書館の蔵書数を確認し、学校図書館図書標準の全校達成および学校図書更新比率全国平均以上 45 校達成に向けて支援する。 （指導課） ●2-9 学校図書館の運営人材の確保 ・2025 年度取組結果 巡回型学校図書指導員の人材を確保できなかったが、2025 年 9 月に学校を対象に、学校図書館の活用、運営状況に関する調査を実施した。 ・2026 年度予定 学校図書館担当者が、学校図書館の運営を担う役割を果たすことができるよう、「学校図書館活用の手引き」を改訂する。 学校図書館活用推進委員会等で、図書館の機能強化について検討し、学校図書館担当者の継続的な図書館運営を可能とする「学校図書館活用の手引き」を改訂する。 （事務局）
--	--

「基本目標Ⅱ」の主な取り組みは、本と出会える環境づくりや、図書資料の整備、学校図書館の充実、保護者に向けた読書イベントの情報発信など。各取り組み項目の自己評価としては、14項目中、A評価が3つ、B評価が10、C評価が1つだった。

2025年度 of 取組結果としては、幼児に人気のシリーズ本の購入、リサイクル本の活用などを行った。また、情報発信について、ホームページでの情報発信、紙媒体の配布などを行った。

A評価の取組、2-2：玉川学園駅前連絡所児童図書室では、絵本関連の受賞作コーナーを設けるなど、コーナーが利用者の目に留まる工夫をした。2-6：学校図書館支援貸出では、新任教員向けの研修データを作成し、貸出冊数が増加した。2-11：図書館ホームページ等での情報発信は、ホームページでの積極的な情報発信のほか、「読書MAP2026」を作成、周知し、本と出会える場所の紹介を行った。

C評価の取組、2-9：学校図書館の運営人材の確保は、予定していた人材確保ができなかったため、C評価とした。

質疑応答

●2-7 学校図書館の蔵書整備

(福田(比)委員)

私が図書指導員として活動している小学校では、2026年度4月の統合に向けて、2025年度は多くの作業をこなしつつ、図書担当職員の指示で、除籍作業をひたすら行った。数が合えばそれでよいのかという疑問を常に持ちながら除籍、廃棄をした。除籍図書を有効利用できる良い方法が何かないか。

(教育総務課)

学校統合においては、図書の重複や配置スペース等の問題があるため、統合校で使用する図書以外は除籍している。除籍した図書については、希望する学校にお渡ししている。希望がない本については、古紙としてリサイクルしている。

(福田(比)委員)

統合する学校図書の扱いについては初めて聞いた。図書はどのように希望する学校に配布しているのか。事前に共有されないのか。

(教育総務課)

図書は譲渡会で配布している。各学校長に通知しており、学校毎に校内への周知はお任せしている。

	(三浦委員) また、統合する学校図書は除籍するとのことだったが、有効活用して欲しい。 (三浦委員) 学校図書更新比率全国平均以上の達成校 39 校と目標を上回る成果が出ており、素晴らしい。ちなみに、2025 年度学校図書更新比率全国平均は何%だったか。 (教育総務課) 提示している学校図書更新比率は、2021 (令和 3) 年度に実施された「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」に基づくものである。当時の学校図書更新比率は全国平均の小学校 7%、中学校 6.5%を参考にしている。2022 年度以降は、調査がされていないため学校図書更新比率の全国平均データはない。 (三浦委員) 実際に 2025 年度の学校図書更新比率は何%だったか。 (教育総務課) 手元にあるのが 2024 年度のデータで恐縮だが、学校図書更新比率の高い学校は 13%、低い学校は 3.5%。 (三浦委員) 何年度の更新比率が何%だったときに成果となるのか。 (教育総務課) 2025 年度の結果として 39 校達成している。 ●2-9 学校図書館の運営人材の確保 (福田 (比) 委員) 2025 年 9 月に行った調査で学校図書館の活用、運営状況に関してどのようなことがわかったのか。 2026 年度、巡回型学校図書指導員について記載がないがどうなったのか。 今後、学校図書館の専門的人材を安定的に確保するために、また、学校図書館の運営を担う役割を果たすために、改訂予定の「学校図書館活用の手引き」以外に、具体的にどのような取り組みを考えられているか。
--	---

(指導課)

児童生徒の貸出冊数は、学校間で差が大きいことや、学校と図書指導員との連携が図れている学校ほど貸出冊数が多いこと、学校ごとに学校図書館の活用方法が異なることなどが分かった。

調査により判明した、学校図書館の活用方法や学校と学校図書指導員との連携方法等の課題を整理するため、教育委員会の職員が学校を訪問し、状況を確認する。

上記の課題を整理するため、学校図書館活用推進委員会を設置し、活用マニュアルの作成や役割分担の整理を進め、学校図書館の機能強化を図る。

●2-9 学校図書館の運営人材の確保

(福田(比)委員)

若手教員育成研修にてマルチメディアデジの紹介を行ったとあるが、研修は若手向けだけでなくベテラン向けにも実施し、なおかつ必ず出席してもらえよう悉皆研修にしたほうがいいのでは。

(指導課)

教員研修は全校から一人ずつだしてもらって実施している。

●その他

(三浦委員)

南町田地区に図書館がない。まちライブラリーやきんじょの本棚のような取組もあるが、南町田地区での読書環境の充実についてご検討いただきたい。

(事務局)

現在は、新たに図書館を造ることが難しい。読書環境の充実に向けた図書館の取組としては、まちライブラリーでの市立図書館の予約資料受取りがある。また、移動図書館のイベントへの出張運行、電子書籍など、読書環境の充実に向けてさまざまな取組を行っている。引き続き市内の皆様が読書に親しむことができるよう取組を進めていきたい。

(三浦委員)

民間と協力して役割分担して読書環境の充実を行うといい。民間の取組も見えるようにするといい。市がどのように関わっているのか見えない。南町田は民間の取組が多い。例えば、まちライブラリーと図書館では蔵書構成や役割が違うと思うが、町田第一中学校図書室の地域利用のように、南町田でも子どもが本と触れ合える機会を増やして欲しい。

	(本郷委員長) 南町田まちライブラリーでの予約受渡は縁があって実施していただいている。まちライブラリーは図書館と同じ本に携わる施設であり、移動図書館が南町田の公園に行くこともある。そのような機会を使って読書普及を進めていきたい。手探りではあるが、いただいた意見を参考にしたい。これからできることを考えていきたい。 ○「基本目標Ⅲ」についての報告 (指導課) ●3-1 学校図書館担当者研修 ・2025 年度取組結果 図書指導員と学校の図書担当が連携して、学校ごとの組織的・計画的な蔵書管理、調和のとれた蔵書や環境整備の研修を計画・実施した。 図書指導員間での情報共有を取り入れた研修の場の設定を行った。 ・2026 年度予定 図書指導員と学校の図書担当が連携して、学校ごとの組織的・計画的な蔵書管理、調和のとれた蔵書や環境整備、学校図書館を活用した学習等、学校図書館を充実していく。 図書指導員と学校の図書担当が連携して、学校ごとの組織的・計画的な蔵書管理、調和のとれた蔵書や環境整備の研修を計画・実施する。・図書指導員間での情報共有を取り入れた研修の場の設定を行う。 (図書館) ●3-3 市民向け絵本の読み聞かせ講座 ・2025 年度取組結果 6 月 26 日「絵本の読み聞かせ講座～基礎編」を実施し、18 名参加。11 月 27 日「童心社の紙芝居講座」を実施し、26 名参加。初の取組。3 月 3 日「市民向け講座 わらべうたであ・そ・ぼ」を実施し、15 名参加。初の取組で満足度が高いイベントであった。今までアプローチできていなかった層にアプローチできた。ボランティアの方の活動の場ともなった。 ・2026 年度予定 保育園・幼稚園や小学校で読み聞かせを行っている保護者等に対して、読み聞かせ講座を年 3 回実施する。 (事務局) 「基本目標Ⅲ」の主な取り組みは、学校図書に関わる人への研修や保護者等向けの講座、読み聞かせボランティアの育成。 各取り組み項目の自己評価としては、A 評価が 1 つ、B 評価が 4 つ。 取組状況として、概ね 2024 年度と同水準での学校関係者への研修や保
--	--

◎情報提供	護者等への講座の実施ができた。 3-3：市民向け絵本の読み聞かせ講座について、新しく「紙芝居講座」、「市民向けわらべうた講座」を試みたこと、また、両講座とも盛況で、多くの方に参加していただいたことから A 評価とした。 質疑応答 ●3-4 おはなし会ボランティアの養成講座 (長尾委員) 2025 年度久しぶりに絵本読み聞かせボランティア向けの講座があったようだが、以前は図書館員がおはなし会のプログラム等へのアドバイスがあったが、最近はあまりない。新規のおはなし会ボランティア向けでなく、すでに活動しているボランティア向けの講座もあるといい。 ・ 報告書（案）を承認し、内容を確定した。 情報提供 (本郷委員長) まず、図書館の取組をご紹介します、それから「移動図書館の出張運行」、「児童・生徒の読書」について情報交換を行いたい。 まずは、図書館で行っている子どもに関する取組を紹介する。 (図書館) 中央図書館で始めた「ここでもう！人気の本コーナー」に説明する。きっかけは学校見学で来館した小学生へのインタビュー。図書館で所蔵しているが、人気のため書架に置かれない本がそろっていたらうれしい、というとの意見があった。また、図書館員としても『サバイバルシリーズ』を借りたいと利用者から言われた際に、分野ごとに分かれて配架していると探しにくかったため、分かりやすく配架したいという考えもあった。その結果、人気のある本を 1 セット館内閲覧とし、待たなくても読めるようにした。4 月 23 日子どもの読書の日から開始している。来るたびに閲覧している子どもが見られたり、そのコーナーの本を借りるための方法を聞かれたりショーウィンドウのような役割も果たしている。今後もラインナップを増やしていきたい。 また、図書館では移動図書館を 3 台所有しており、市内の公園等 58 か所の巡回場所に 2 週間おきに定期巡回している。1 か所 30～50 分停車し、本の貸出・返却・予約サービスを実施。その他に、子どもたちが本と親しむきっかけとなるよう保育園・幼稚園・学童保育クラブ等子供関連施設に出張運行を行っている。そこでは図書の貸出の他、おはなし会を行っている。2025 年度はイベントでの出張運行を含めて 13 か所伺った。先
--------------	---

◎情報交換・情報共有	日、子ども関連施設に移動図書館の利用意向アンケート実施した。今後は子どもの集まる場所を中心に出張運行を拡大する。移動図書館の利用を皆さんにも検討いただきたい。 次に、図書館で配布している資料を紹介する。「町田市読書 MAP2026」は市内の本の貸出・閲覧施設を紹介しているもの。「まちクエ 2026 (チラシ)」は謎解きをしながら図書館の使い方を学べるイベント。昨年の参加者は 187 人、そのうちクリア者が 121 人と、人気のイベント。まちクエは 7 月 18 日から開始し、入門講座を 7 月と 8 月に一回ずつ実施するので、ぜひご参加いただきたい。「ショートショートコンクール (チラシ)」は小学生から高校生を対象とした、ショート作品のコンクール。テーマ設定がなく、自由な発想で作った作品を募集しており、例年 800～1000 件程度の応募がある。生徒さんやお知り合いの方などにご紹介いただきたい。ひとこと POP コンテストは小学 4 年生から 18 歳までを対象としたおすすめ本を POP で紹介してもらおうイベントで、例年 300～500 件程度の応募がある。5 作品が受賞作品としてお配りしたようなしおりになり、市内各所で配布している。夏には障がい者サービスイベントとして「見える！のカタチは色々！図書館のユニバーサル体験」と題して、デ이지ー資料、リーディングトラッカーの紹介に加え、触覚で基石の位置や色を判別できる囲碁「アイゴ」の体験ができるイベント、点字体験イベント「点字でなまえをうってみよう！」を実施予定、詳細はチラシをご覧ください。図書館プランナーイベントからは 7 月 26 日におすすめの青年漫画を 5 分で語るイベント、題して「青年漫画ですが？」、8 月 22 日に TRPG (テーブルトーク RPG) のイベント「おいでよ！クトゥルフの沼 3」を実施予定。チラシをご覧ください、ぜひお越しいただきたい。 情報交換・情報共有 ① BM の出張運行について (本郷委員長) 図書館では、保育園や幼稚園へ移動図書館がうかがう出張運行を行っている。玉川中央幼稚園には、移動図書館がうかがったこともあったが、中川委員から、もし移動図書館がうかがったときの感想や改善点などがあれば、うかがいたい。 (中川委員) そよかぜ号に 2026 年 1 月に来てもらった。大好きな乗りものに大好きな本が載っていて、子どもたちはとても喜んでいて。今の子はものに対する欲が下がってきており、ものを大切にする気持ちが少ない。床にある本を踏んでしまうこともある。ただ、今回の本は借りたという意識が強く、大切にしていた。一人一冊借りた本を保育園に並べていて、他の児
-------------------	---

童が借りた本を読む姿も見られた。ある子は他の子が借りた妖怪の本が怖いと言っている子もいた。その本にはお札を貼って対応したが、自分では借りない本を知るきっかけになった。いつも1か月ほど借りている。楽しみにしているので、今後もお願いしたい。

幼稚園では本が傷みやすので、リサイクル本を頂けると嬉しい。

(武藤委員)

そよかぜ号にまだ来てもらったことはないが、話を聞いて利用したいと思った。園長会でも宣伝したい。子どもたちは自分たちで選んだ本は特別感があり、嬉しいと思う。近隣にも保育園・幼稚園があるので声をかけあって、そよかぜ号にきてもらえるといいのではないかな。本の返し方はどうなるのか。

(図書館)

最大3か月貸出可能。各市立図書館窓口に戻していただくか、難しい場合こちらから伺うことも可能なので、返却方法は相談いただきたい。ぜひそよかぜ号を利用してほしい。

(三浦委員)

そよかぜ号は自宅近くに来ているので利用している。ただ、返却ポストがどこにあるのか分からない。読書MAPにも記載がない。どこかに記載してもらえると嬉しい。

(本郷委員長)

図書館であれば営業時間外でも使える返却ポストがある。

(事務局)

予約資料受渡しサービスを行っている施設での返却ポストは図書館ホームページに記載があるので参考にして欲しい。

② 児童、生徒の読書について

続いて、児童・生徒の読書について意見交換を行いたい。三浦委員がお子さんに読書についてお話を聞いていただいたとのことなので、ぜひこの会議でもお話いただきたい。

(三浦委員)

私も妻も読書が好きで、子どもにも本を読んでもらいたいと思っている。長女はそれなりに本を読んでもらっているが、中3の次女はあまり読まない。次女に話をした様子をお伝えする。

	Q：学校の宿題とかじゃなくて、自分から本を読むことってある？ A：ある。学校の朝読書の時間に週何回か。一回 10 分。スマホ漫画も読書と言えるなら、時々読む。家では、今は読まない。どうしても読みたい！となることもない。 Q：今、「鬼滅の刃」みたいに、みんなが読んでみたいものってあるの？ A：そういうのはない。みんなが読んでるから読むわけじゃない。 Q：「本を読んでみようかな」って気持ちになるとしたら、どんなきっかけがありそう？ A：映画化してる小説。「かがみの孤城」は 2 回読みました。今は朝読書で「まどぎわのトットちゃん」読んでいる。好きなタレントが出ている映画の原作もの。最近だと「ほどなくお別れです」。好きな読書系インフルエンサーの紹介で面白そうだった本。「6 人の嘘つきな大学生」「ぎんなんみ商店街の事件簿」「レモンと殺人鬼」は読んだ。表紙がいいなって思うものがある。「ファラオの密室」など。こういう本は読まないって決めているのではない。でも興味持つのは小説が多い。 Q：学校や大人が「本を読もう！」って言う時、正直どんな気持ち？ A：よく分からない。具体的にこの件について考えたことがない。これ読めば？って勧められても断ることが多い。親や姉のおすすめはあんまり響かない。 Q：誰かに本をすすめられるなら、どんな人の言葉なら「読んでみようかな」ってなりそう？ A：今までで勧められた本を一番読んでるのは、TikTok の読書系インフルエンサーの、けんごさん。 Q：けんごさんの紹介の、どんなところが好きか？ A：あんまり考えて見てないけど、なんか、面白そう、ってなる本がある。 Q：もし学校や図書館で、“今のあなたならちょっと読みたくなる仕掛け”を作るとしたら？ A：映画の原作、好きなタレントが出演している本。10 分で読めるとか、短いことには特に価値を感じない。ミステリーとか謎解きみたいなものが好き。
--	--

Q：本を読むとき、「ここが嫌だ」は？

A：恋愛ものは映画化とかも多いから興味もつこともある。感動ものも別にいやじゃない。「ほどなくお別れです」「銀河鉄道の父」「まどぎわのトットちゃん」のような感動する映画も好き。小説以外だとあまり興味ない。

Q：「本を読み始める」前って、何が一番ハードル？

A：失敗したくない。読んで面白くなかったら嫌だ。けんごさんが紹介して面白そうと思ったやつは、面白い確率が高いし、映画で面白いやつも面白い本の可能性が高いので読む気になる。全然知らない本は、面白くなかったら嫌だからあんまり興味持たない。時間がないのという理由はある。

Q：もし学校や図書館で、「あなた向けに本をすすめる人」がいるとしたら、どんなすすめ方なら信用できそう？

A：されたことがないから正直分らない。今まで身近な人のおすすめで読んだことがあまりないから想像できない。

Q：「本を読む子になってほしい」って大人が言うとして、正直どう思う？

A：・別にいいとも悪いとも思わない。読んでいる人に対して、読んでいてすごいな、えらいなとか、そういうのも特にない。

特に、現在思春期なので、親や姉、あるいは先生から勧められても読まないかもしれないが、忙しい中学生は、「せっかく時間をかけたのに、面白くなかった」という失敗をしたくない、というのも大きいようだ。

(本郷委員長)

図書館でも中高生向けの本の進め方について考えて取り組んでいきたい。メールマガジンを始めたのだが、その中で職員が本の紹介を行っている。参考にしてもらえるとありがたい。

(大石先生)

2025年度の委員会で小中学校の不読率、年間の読書数の比較があった。私は中学3年生の都立高推薦入試の面接練習を行うことがあるが、そこで子どもに「趣味は読書で、年間10冊程度」と言われることがある。生徒は二極分化している。年間100～200冊読む子もいれば、中学だけでなく、おそらく生涯本を読まない、まとまった文章は読まないような子どももいる。その違いは、中学校で司書教諭や図書館専門員が行う授業や

その他	イベント量が大きい。ボランティア精神のある教員が図書委員と共に活動している場合は、図書室にいつも生徒がいた。放課後学習を実施している学校でも本を読む子どもが多い。 働き方改革によって減ってきているが、先生のおすすめ本があると子どもが本を手取る機会が多い。公立図書館は不特定多数を対象なのでフェアを行っても貸出冊数にはつながりにくいだろうが、中学で行うと効果が高い。ただ、図書指導員や司書教諭が忙しいと図書室に力を注ぎにくい実態がある。 (吉成委員) 小学校の低・中学年では毎週図書室に行く時間がある。子どもたち図書室に行く時間は好きなようだ。ただ、読書量が増えていくかは課題。中学校と比べると、小学校の図書室の蔵書数は多いが、いかに本を手を出して好きなジャンルや作家を選択できるようになるかの仕掛けが大事。流行っている本や教科書の関連本は手にとりやすい。指導員がおすすめ本として本の表紙を出していると読まれやすい。なじみのあるものを増やしていくことが大事だ。地域の方やボランティアに行っている読み聞かせは高学年も好き。若手教員研修も大事。皆さんの力を借りながら子ども読書を進めていきたい。 (輪田委員) 本読み隊としてボランティア活動している。各教室にある学年文庫を活用して、人気の本は1週間置かせてもらっている。読み聞かせでは教科書関連本を使用している。英語の本の読み聞かせは英語の先生に行ってもらっている。3年生はかいこを育てているので、かいこにまつわる紙芝居を読んだ。学期末に学年ごと合同の読み聞かせを行っているが、ホールで行うので、後方の子どもでも本が見えるよう、電子黒板にスライドショーとして投影しながら、読み聞かせをしている。学習につながるクイズも行っている。読み聞かせを行う保護者向けに、読み聞かせをしあう会も行った。私は図書館の講座に参加したので、そこで聞いたことを伝えた。 (事務局) 情報交換の時間は、以上となります。ありがとうございました。 その他 (事務局) 事務局から次回会議開催予定の連絡を行った。 以上
------------	---